

大阪市立大学工学部 学生員 ○林 武志  
大阪市立大学工学部 正会員 日野 泰雄

### 1. はじめに

近年、高度経済成長期以降における「需要追従型道路整備」の行き詰まりに加え、高齢化や地球環境問題等の新たな課題への対応として「ゆとりある道路空間の創出」といった質の向上が道路整備に求められるようになった。特に、土地区画整理事業などに代表される面的整備による「まちづくりに呼応した質の高い道路整備」が、より一層求められている。

本研究では、このような背景を踏まえて、大阪府下における具体的な整備事例を対象に、面整備に伴って確保（供給）される道路等の公共空間の質と量が都市形成（まちづくり）にどのような影響を与えているのかを分析し、今後のまちづくりを誘導する道路整備の方向性の提案を試みる事を目的とした。

### 2. 道路整備量から見た面開発の効果

図-1 に大阪府下における道路整備面積の累計と面開発に伴う道路整備面積割合の推移を示す。これより、年々面開発に伴う道路整備面積の割合が高くなっており、現在では全体の13%を占めている事がわかる。

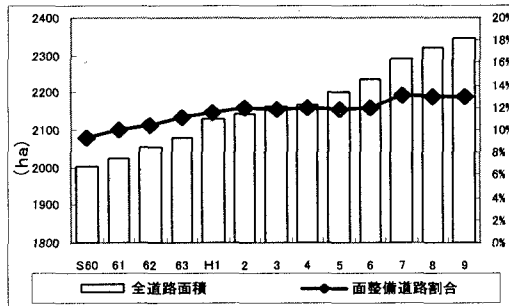


図-1 道路整備面積と面開発に伴う道路整備面積割合の推移

### 3. まちづくりから見た道路整備の効果

本研究における対象地区は府下で現在施工中あるいは施工予定の7地区である。これらの面整備では各々に以下のようなまちづくり方針を掲げている。

- ①防災機能の向上—密集市街地を整備する事により地区の「安全性」の向上を図る。  
(高石駅西地区、豊中市野田地区)
- ②地区の活性化—駅前の好立地条件を生かした市街地の賑わいの向上を図る。

(泉佐野市日根野地区、摂津市東一津屋地区)

- ③豊かな自然環境を生かした市街地形成—地区の豊かな水や緑により、まちのうおい性の向上を図る。  
(豊中市少路地区、岸和田市尾生久米田地区、箕面市)

#### 3.1 面整備に伴う土地利用の変化

図-2 は、土地区画整理事業を施工中の3地区を例とした施工前後の土地利用比較である。

これより、いずれも平均的に建物用途敷地が減少し、道路面積が2倍以上に整備され、公園等を含めた公共施設用途が増加していることがわかる。このような公共空間の創出が面整備による量的効果である。

次に、その質的内容を詳細に見るため、各事業地区の公共施設の内容を見てみる。

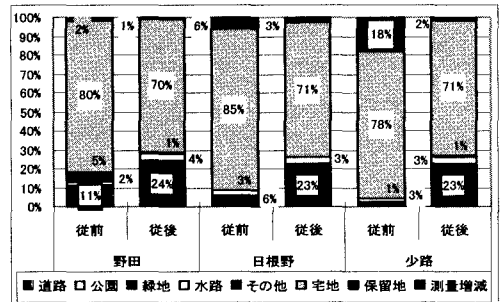


図-2 各事業の施行従前従後の土地利用比較

図-3 に各事業別の公共施設用途別面積割合を示す。

これより、例えば「高石駅西地区」と「日根野地区」や「箕面地区」では都市計画道路割合に大きな相違が見られ、上述したようなまちづくり方針の相違に応じた整備内容に違いのあることがわかる。

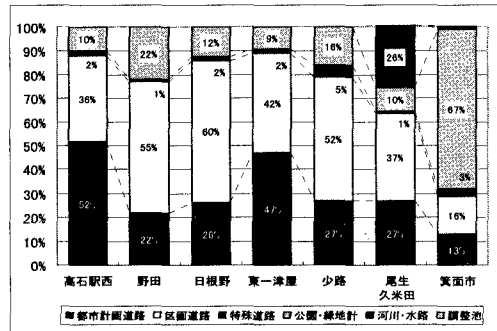


図-3 各事業別の公共施設の用途別割合

### 3.2 人のための空間量から見た面開発の効果

図-4には、各地区別の平均歩道面積割合、また図-5に歩道、広場、公園、緑地、河川などを含めた人の活動のための空間（以下、人系空間と呼ぶ）比率を示す。

これより、幹線系の都市計画道路で1/2程度が歩行者のために確保され、また区画道路には単断面で歩行者主体の整備も希ではないことから、全体として人の活動に重点が置かれていると言える。このことは公共空間に占める人系空間比率が45%程度と高い事からも明らかであろう。特に「野田地区」では、都市計画道路の約6割が歩行者のために充てられており、「箕面地区」では公園・緑地が公共施設全体の約7割、人系空間比率においては実に76%を占める等、各々の整備の特徴が伺われる。

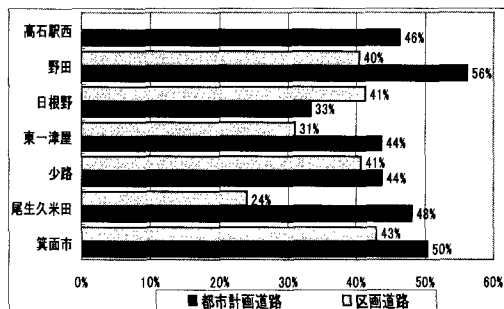


図-4 各事業別の各種道路平均歩道面積割合

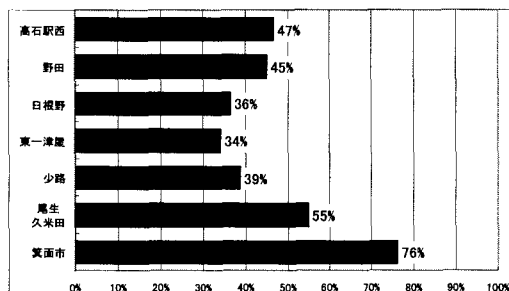


図-5 各事業別の公共施設面積に対する人系空間比率

### 4. まちづくりコンセプトと空間整備量の関係

これまでの道路をはじめとする公共空間面積の供給量から面整備の効果を示したが、本節ではこれらとまちづくりコンセプトとの関係を分析する。

表-1は、面開発の重点的整備指針毎に各施設量の割合を算出し（図-3、図-5参照）、これを全体平均に対する比率で示したものである。但し、「箕面地区」はエリアの大部分が山林等であり、開発面積も他と比べて極端に大きいため別途扱う事にした。

これにより、各整備方針別に重点的に供給される施設を抽出する事が出来る。例えば、防災機能は地区の骨格となる道路及び公園・緑地を含む人系空間で支え

られているのに対して、地区の活性化は道路に重点が置かれていることがわかる。

表-1 重点的整備指針毎の各施設割合比率

| 重点的整備指針           | 地区名   | 公共施設内用途別内訳 |      |      |      | 人系空間面積 |
|-------------------|-------|------------|------|------|------|--------|
|                   |       | 都市計画道路     | 区画道路 | 特殊道路 | 公園緑地 |        |
| 防災機能の向上           | 高石駅西  | 1.6        | 0.8  | 0.9  | 0.8  | 1.1    |
|                   | 野田    | 0.7        | 1.2  | 0.5  | 1.7  | 1.1    |
|                   | 平均    | 1.1        | 1.0  | 0.7  | 1.2  | 1.1    |
| 新市街地形成地区の活性化      | 日根野   | 0.8        | 1.3  | 0.9  | 0.9  | 0.8    |
|                   | 東一津屋  | 1.4        | 0.9  | 0.9  | 0.7  | 0.8    |
|                   | 平均    | 1.1        | 1.1  | 0.9  | 0.8  | 0.8    |
| 豊かな自然環境を生かした市街地形成 | 少路    | 0.8        | 1.1  | 2.3  | 1.2  | 0.9    |
|                   | 尾生久米田 | 0.8        | 0.8  | 0.5  | 0.8  | 1.3    |
|                   | 平均    | 0.8        | 0.9  | 1.4  | 1.0  | 1.1    |
| 全平均               |       | 1.0        | 1.0  | 1.0  | 1.0  | 1.0    |
| 箕面市               |       | 0.4        | 0.3  | 1.4  | 5.1  | 1.8    |

次に、この値に基づいて各地区毎に各々の施設構成率を示した（表-2）。これより、例えば防災機能型でも「高石地区」は幹線道路、「野田地区」は区画道路と公園・緑地を重視している事がわかる。また、自然環境型では「尾生久米田地区」の人系空間比率が高く、長寿型社会に対応する大規模開発となる「箕面地区」では、公園・緑地を特に重視している事が明らかである。

ところが、図-2で示した様にここでとりあげた最近の面開発が人の活動を重視しているとはいえ、地区活性化を目指す開発では人系空間面積のウェイトが低く、一部では依然、車による活動への依存傾向が見られる。

表-2 地区別に見る各施設構成率

| 重点的整備指針           | 地区名   | 公共施設内用途別内訳(%) |      |      |      | 合計(%) | 人系空間面積(%) |
|-------------------|-------|---------------|------|------|------|-------|-----------|
|                   |       | 都市計画道路        | 区画道路 | 特殊道路 | 公園緑地 |       |           |
| 防災機能の向上           | 高石駅西  | 39            | 19   | 23   | 19   | 100   | 28        |
|                   | 野田    | 17            | 30   | 12   | 42   | 100   | 27        |
|                   | 平均    | 28            | 24   | 17   | 31   | 100   | 27        |
| 新市街地形成地区の活性化      | 日根野   | 20            | 33   | 24   | 23   | 100   | 22        |
|                   | 東一津屋  | 36            | 23   | 24   | 18   | 100   | 20        |
|                   | 平均    | 28            | 28   | 24   | 20   | 100   | 21        |
| 豊かな自然環境を生かした市街地形成 | 少路    | 15            | 20   | 42   | 22   | 100   | 17        |
|                   | 尾生久米田 | 29            | 28   | 16   | 27   | 100   | 46        |
|                   | 平均    | 20            | 23   | 34   | 24   | 100   | 27        |
| 全平均               |       | 25            | 25   | 25   | 25   | 100   | 25        |
| 箕面市               |       | 5             | 5    | 19   | 71   | 100   | 25        |

### 5. 結論と課題

本稿では、面開発に伴う各種施設の（計画）供給量を指標として、そのまちづくりコンセプトを表す事が可能である事を示したが、これをさらに一般化することによって、面開発の計画立案やその評価に対して効果的なデバイスとなり得ると考えられる。

したがって、今後、これらのデータをさらに収集し、一般化を図ると共に、地区計画によって創出される公開空地やコミュニティ道路などを含む区画道路の形態、図書館等の公共施設供給のより詳細なデータを加える事により、評価の精度を向上させる事が期待されよう。

なお、大阪府都市整備推進課には貴重なデータを提供していただいた事を記して、感謝します。